

か いぎしよ

12 Dec.
2024/No.763



トップの部屋

100年の伝統を守り 進化し続けるめっき技術の革新者

日東亜鉛株式会社 代表取締役社長 本野 晃司 氏

令和7年会員賀詞交歓会ご案内

令和7年1月7日(火) 詳細・申込は本誌7ページ



■ 音楽情報 MUZA パイプオルガン クリスマス・コンサート2024 12月21日(土)

■ シネマ情報 「はたらく細胞」12月13日(金) 公開



KAWASAKI

★印があるページは読むことができます。
それ以外のページは本誌でお楽しみ
ください。

event

30p

音楽情報



MUZAバイオルガン
クリスマス・コンサート2024

12月21日(土)

31p

シネマ情報



©清水茜 / 講談社
©原田重光 / 初嘉屋一生 /
清水茜 / 講談社
©2024映画「はたらく細胞」
製作委員会

はたらく細胞

12月13日(金)公開

★ 2 トップの部屋
100年の伝統を守り
進化し続けるめっき技術の革新者

日東亜鉛株式会社 代表取締役社長 本野 晃司 氏

6 生命共済制度をご活用ください

7 令和7年会員賀詞交換会ご案内

★ 8 会員ひろば
人形工房はやしや[川崎区]
黒猫豆花[高津区]
行政書士SAI法務事務所[多摩区]

12 巡回生活習慣病検診のご案内

22 古賀彰孝の税務Q & A
年末調整における定額減税の処理(年調減税)
税理士 古賀 彰孝

★ 24 儲かる! 商売に役立つ ワンポイント
顧客離れは怖いですが、値上げ(価格交渉)を検討しませんか?
中小企業診断士・当所専門相談員 仲田 俊一

26 はじめよう! カーボンニュートラル
第8回 脱炭素化への挑戦 日崎工業株式会社の取り組み(後編)
中小企業診断士 渡邊 一弘

14 中小企業・小規模事業者向け支援施策のご案内

38 小規模事業者経営改善資金制度

11 ビジネス手帳プレゼント

16 CCIレポート

19 新入会員のご紹介

20 「年末調整事務」無料相談のご案内

27 オンライン経営相談

28 WEBセミナー・研修講座

30 イベント

漢字詰めクロスワード / 12月・令和7年1月の川崎大師

★ 32 情報NOW
中小企業のためのDX事例 / トレンド通信

34 ガンバレ! フロンターレ!

35 GO! GO! 川崎ブレイブサンダース

36 川異研通信

40 「川崎CNブランド2024」の認定製品・サービスが決定しました!

21 新会員をご紹介ください

25 専門相談制度をご活用ください

29 女性会 入会のご案内

37 ビジネス総合保険制度

42 小規模企業共済

44 大人のそろばん教室 参加者募集中!

45 パソコン教室 受講生募集!

48 会議所行事等予定表・編集後記

□ 会員優待サービス券

■ 審美巡礼(解説 佐藤寛介 /

東京国立博物館 学芸企画部 特別展室長)

★ ■ かわさき発 ぶらり旅

年末年始の業務について

年末: 12月27日(木)午後から休業

年始: 令和7年1月7日(火)から

通常業務



第112話

トップの
部屋



100年の伝統を守り 進化し続けるめっき技術の革新者

本野 晃司 氏

(MOTONO Koji)

日東亜鉛株式会社 代表取締役社長

本野社長は、創業から100年続く溶融亜鉛めっき専門メーカーの6代目。創業者である祖父は、関東大震災の翌年に東京で起業。鉄をさびや腐食から防ぐめっきを施されたインフラ設備は、震災復興に当たって数多く使用された。本野社長は、持続可能な社会の実現を目指し、環境にやさしい新技術の開発に取り組むとともに、次世代のためにめっき業界の働き方改革のリーダーとして挑戦を続ける。

関

東大震災からの復興を夢見て起業した祖父

—これまでの歩みを教えてください。

本野 1924年7月、私の祖父である本野吉彦が、東京・月島で小幡亜鉛鍍金(めっき)工場を創業しました。前年に発生した関東大震災で、街ががれきの山と化した光景を目の当たりにし「インフラを支え、復興に貢献したい」という強い思いから、溶融亜鉛めっき(以下、亜鉛めっき)事業を始めたと聞いています。亜鉛めっきは鉄を空気や水から守り、さびや腐食を防ぐ技術であり、送電用鉄塔や水道管、ガス管など、多くのインフラ設備の復旧や敷設に役立てられました。

1959年10月、富士製鐵(株)<現・日本製鉄(株)>からの要請を受け、川崎市大師河原に日東亜鉛鍍金(株)を設立しました。その後、名古屋や栃木にも工場を増設し、日本工業規格(JIS)の表示認定を取得するなど、技術の向上に努めてきました。

1996年4月には本社を現在の川崎市水江町に移転し、鋼管ならびに一般構造物の亜鉛めっき加工業務も開始。社名も日東亜鉛(株)に変更しました。おかげさまで、今年で創業100周年を迎えました。

—社長は何代目ですか。

本野 社長としては6代目、祖父直系としては3代目です。祖父にはじまり、その弟、親戚の小幡、新日鉄出身者、父の直彦(現・代表取締役会長)、そして私と受け継いで参りました。

イ

インフラの安全性と耐久性を支える「縁の下の力持ち」

—亜鉛めっきについて、詳しく教えてください。

本野 亜鉛めっきには、「保護皮膜作用」と「犠牲防食作用」という2つの効果があります。保護皮膜作用とは、鋼材の表面に亜鉛成分が酸化皮膜を形成し、空気や水を通

しにくくする効果です。犠牲防食作用は、亜鉛めっきに傷が付き素地の鉄が露出しても、亜鉛が溶け出して鉄を守り、腐食を防ぐ効果です。亜鉛めっきは、長期間にわたって防さび効果が持続するので、メンテナンスの手間がほとんどかかりません。そのため、他の表面処理法と比較しても、コスト面で非常に経済的です。

—御社がこれまで手掛けられた仕事について教えてください。

本野 古くは、昭和天皇が乗られた御料車「日産プリンスロイヤル」のシャーシの亜鉛めっきを手掛けました。最近では、東京スカイツリーの展望台、新国立競技場の屋根やスタンド、テーマパークのアトラクション、原子力発電所にも当社の技術が使われています。

私たちの仕事は、インフラの安全性と耐久性を支える「縁の下の力持ち」です。高速道路の標識柱やガードレール、アウトレットの大型駐車場、街中に建つ通信鉄塔や太陽光発電の架台、電柱など、当社の技術は多くの場所で役立っています。

東

日本でトップクラスの生産量を誇るリーディングメーカー

—御社の強みはなんですか。

本野 当社の強みは、パイプと構造物の両方に対し、量産的にめっき加工ができる点です。川崎工場には、大きさの異なる釜を備えた3つの生産ラインが設置されており、名古屋工場と栃木工場にもそれぞれ1つずつラインが整備されています。合計5つのラインにより、他社では対応が難しい、多様なニーズにお応えすることが可能です。2020年には鉄筋めっき加工の自動化システムを導入し、生産の安定性を高めるとともに、短納期対応の体制も強化しました。

当社は亜鉛めっき製品の生産量において東日本でトップクラスの実績を誇り、その品質と供給能力には自信があります。



450℃で溶かした亜鉛に製品を浸す

リーディングメーカーとしてどんな役割を担っていき
たいですか。

本野 世界に向けて、日本の高い技術を発信する役割があると思います。当社はその一歩として、2015年に「ピュアZ」という環境負荷物質を抑えた環境に優しい亜鉛めっきを開発しました。この技術は、優れた防さび性能を維持しつつ、RoHS指令（電気・電子機器における特定有害物質の使用制限）を完全にクリアした、鉛レス・カドミウムレスの高純度溶融亜鉛めっきです（JIS H 8641に準拠）。地元産業を代表する技術の1つとして認められ、本年、川崎ものづくりブランド*に認定されました。

「きれい・格好よく・稼げる」 新3K職場へ

—どのような職場にしたいと考えていますか。

本野 安全で快適な職場を提供するのはもちろん「きれい（清潔）」な工場で、「格好よく」働き、しっかり「稼げる」。そんな新しい「3K」の職場づくりを目指しています。

また、当社の取り組みをInstagramなどのSNSを駆使し広報した結果、営業職と製造現場で初めて女性を採用することができました。

外国人社員については、ベトナムなどからの技術研修生が中心です。日本語能力試験の合格者には、合格シールをヘルメットに貼って表彰するなど、モチベーションを高める工夫をしています。

さらに、健康経営を積極的に取り組む企業を評価する「健康経営優良法人2024」や、「家族に入社を勧めたい・次世代に残していきたい企業」を認定する「ホワイト企業認定」のプラチナ評価も得ています。またSDGsへの取り組みが川崎市に認められ、「かわさきSDGsゴールドパートナー」の認証を取得しました。

—社員教育はどのように行っていますか。

本野 当社では、独自の社内教育やOJTを通じて、未経験者でも活躍できる職場づくりに取り組んでいます。また、めっき技能士資格、クレーン免許、フォークリフト免許などの資格取得に必要な受験料は全額会社が負担し、社員のスキルアップをサポートしています。これにより、社員一人ひとりが自信を持って業務に取り組める環境を整えています。

また、IT化に積極的に取り組み、作業の進捗状況を「見える化」することで、ベテランの技術が若手にしっかりと引き継がれる仕組みを構築しています。その結果、川崎工場と名古屋工場では、この10年ほどで平均年齢が38歳までに若返り、活力のある職場環境が生まれています。

日々、社員一人ひとりが仕事に対し真剣に取り組んでくれる姿を見ると感謝しかありません。



クレーンを操縦する社員

「ありがとう」と言ってもらえる会社であるために

—将来への展望をお聞かせください。

本野 亜鉛めっき事業を100年続けてきた実績に誇りを持ち、理念を守り続け、今後も変化を恐れず成長を続けていきたいと思っています。現在の売上げは関連会社を含めて50億円前後ですが、将来的に100億円が目標です。そのためには働く人の幸せを第一に考えることが重要です。やりがいを持って働ける環境を整え、人の力を最大限に活用できる会社にする、それが私の使命だと思います。

縁の下の力持ちとして、お客さまはもちろん、地域の方々や取引先、協力会社の皆さまから「ありがとう」と言ってもらえるよう、日々努力を惜しまずに挑戦を続けてまいります。

—趣味について教えてください

本野 趣味はマラソンです。東京マラソンにたまたま当選したことがきっかけです。スポーツが得意な妻と一緒に出場しました。それからは、旅行の際にも必ずランニングシューズを持参し、走ることを楽しんでます。フルマラソンは2人で20回以上走りました。タイムは3時間40分くら

いですね。今後の目標は、まだ出場したことのない横浜マラソンに挑戦することです。



夫婦で参加した京都マラソン

*川崎ものづくりブランド認定事業は、市内中小製造業が生み出した優れた製品・技術を広く国内外にアピールし、販路拡大を支援することを目的として2004年度より実施。

日東亜鉛株式会社
川崎区水江町4-3
電話 044-266-7881

■ profile

本野 晃司氏 (もとの こうじ)

- 1969年 東京都大田区 生まれ
- 1992年 立教大学経済学部 卒業
- 1993年 英国ウェールズ大学大学院経営学課程 卒業
専門商社 入社
- 1997年 日東亜鉛(株) 入社
- 2003年 同社取締役川崎工場長代理 製造部長 就任
- 2005年 同社常務取締役 営業本部長 就任
- 2007年 同社代表取締役社長 就任